

平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月9日

上場会社名 神姫バス株式会社
コード番号 9083 URL <http://www.shinkibus.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長尾 真

問合せ先責任者 (役職名) 取締役企画部長 (氏名) 大谷 隆

TEL 079-223-1243

四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	32,376	0.3	1,091	△17.4	1,198	△16.1	808	△9.9
29年3月期第3四半期	32,271	△0.1	1,320	△26.7	1,429	△26.2	897	△30.3

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 1,149百万円 (25.6%) 29年3月期第3四半期 915百万円 (△33.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	134.15	—
29年3月期第3四半期	148.87	—

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	57,111	41,563	72.7	6,895.99
29年3月期	55,585	40,614	73.0	6,737.43

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 41,538百万円 29年3月期 40,590百万円

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり純資産」を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	2.50	—	3.50	6.00
30年3月期	—	3.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	15.00	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。平成30年3月期(予想)の1株当たり期末配当金については、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「—」として記載しております。株式併合を考慮しない場合の平成30年3月期(予想)の1株当たり期末配当金は3円となり、1株当たり年間配当金は6円となります。詳細については、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,200	1.5	2,700	△3.3	2,900	△4.2	2,000	0.5	332.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。平成30年3月期の連結業績予想における1株当たり当期純利益については、当該株式併合の影響を考慮しております。詳細については、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年3月期3Q	6,172,000 株	29年3月期	6,172,000 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

30年3月期3Q	148,396 株	29年3月期	147,346 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

30年3月期3Q	6,024,220 株	29年3月期3Q	6,025,458 株
----------	-------------	----------	-------------

(注)当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、平成29年6月29日開催の第134回定時株主総会において、株式併合について承認可決され、平成29年10月1日を効力発生日として、普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。なお、株式併合考慮前に換算した平成30年3月期の配当予想及び連結業績予想は以下の通りとなります。

(1) 平成30年3月期の配当予想

1株当たり配当金

期末 3円00銭

年間 6円00銭

(2) 平成30年3月期の連結業績予想

1株当たり当期純利益

通期 66円41銭

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、政府による経済政策を背景に景気回復が続く中、企業収益や雇用情勢の改善により個人消費は緩やかな回復基調で推移しましたが、米国の政策動向や東アジア地域の情勢不安等による世界経済の不確実性の影響等により、先行きは依然として不透明な状況が続いています。

このような情勢のもと、平成29年8月8日に創立90周年を迎えました当社は、基盤となるバス事業を中心に、更なる安全性の向上及びお客様視点によるサービスづくりに努めるとともに、積極的な事業展開を行い、中長期的な収益力の向上を目指してまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比105百万円(0.3%)増の32,376百万円、営業利益は前年同期比229百万円(△17.4%)減の1,091百万円、経常利益は前年同期比230百万円(△16.1%)減の1,198百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比88百万円(△9.9%)減の808百万円となりました。

セグメントの業績は次の通りであります。売上高、営業利益はセグメント間の内部売上高又は振替高控除前の金額であります。

① 自動車運送

乗合バス部門におきましては、一般路線バスでは沿線商業施設へのアクセス強化や三宮を基点とする路線の増便に加え、通勤需要の増加による定期券やICカード利用の増加等により増収となりました。高速乗合バスは明石市・神戸市西区～三宮線や三宮～USJ線が好調に推移したこと等により増収となりました。また、平成29年3月より2階建てオープンバスを使用した神戸市内定期観光バス「スカイバス神戸」の運行が増収に寄与しました。タクシー部門は乗務員不足による稼働率の低下により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比126百万円(0.9%)増の14,298百万円となりましたが、営業損益は人件費及び燃料費の増加等により前年同期に比べ232百万円悪化し、434百万円の営業損失となりました。

② 車両物販・整備

車両物販部門におきましては、自動車販売が増加したことに加え、大型車両部品の販売や自動車リサイクル部品の販売が好調に推移したことにより増収となりました。自動車整備部門はバス搭載機器の取付が増加したものの、大型の自動車整備用設備の売上を計上した前年同期に比べ減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比20百万円(0.3%)増の6,065百万円となりましたが、営業利益は原価率が悪化したこと等により前年同期比25百万円(△7.7%)減の309百万円となりました。

③ 業務受託

車両管理部門におきましては、新規顧客の獲得や既存顧客からの受注増等により増収となりました。経営受託部門は指定管理施設の新規契約に加え、既存施設の管理・運営範囲の拡大により増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比186百万円(7.9%)増の2,531百万円となりましたが、営業利益は人件費の増加等により前年同期比25百万円(△12.7%)減の176百万円となりました。

④ 不動産

賃貸部門におきましては、姫路駅前商業ビル「キューエル姫路」等が高稼働を維持したものの、既存の賃貸用マンションの一部を売却したことにより減収となりました。住宅部門は建売・注文住宅の販売戸数が増加したものの、分譲地販売区画数が減少したことにより減収となりました。建設部門は店舗新装工事や社屋の建設工事の売上を計上した前年同期と比べ減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比392百万円(△13.8%)減の2,461百万円、営業利益は前年同期比14百万円(△1.4%)減の1,021百万円となりました。

⑤ レジャーサービス

サービスエリア部門は、ゴールデンウィーク期間中の利用者は増加しましたが、8月から9月にかけて相次いで発生した台風の影響等により前年同期並で推移しました。飲食部門は平成29年9月にFC事業としてオープンした「串屋物語」が収益の確保に寄与しましたが、不採算店舗の閉店等により減収となりました。食品製造販売部門は不採算店舗から撤退する一方で、一部の既存店舗のリニューアルを行い、収益性の向上に努めました。ツタヤFC部門は平成29年2月に新店「TSUTAYA姫路飾磨店」が増収に寄与しました。以上の結果、売上高は前年同期比139百万円(△2.8%)減の4,817百万円となりましたが、営業損益は飲食部門及び食品製造販売部門の不採算店舗を閉鎖したこと等により黒字転換し、3百万円の営業利益(前年同期は119百万円の営業損失)となりました。

⑥ 旅行貸切

旅行部門におきましては、手配旅行は大口団体の受注が減少したこと等により減収となりましたが、募集型企画旅行は専用車両「Limon Bus」を利用した訪日旅行の取扱いが増加したこと等により増収となりました。貸切バス部門は稼働数減により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比7百万円(△0.2%)減の3,050百万円、営業損益は償却費及び宣伝広告費の増加により前年同期に比べ95百万円悪化し、1百万円の営業損失(前年同期は94百万円の営業利益)となりました。

⑦ その他

清掃・警備部門におきましては、姫路駅前キャッスルガーデンの設備管理業務の新規受注に加え、建物清掃業務における新規顧客の獲得や既存顧客からの受注増により増収となりました。広告部門はラッピングバスの受注増等により増収となりました。化粧品販売部門はエステサロンの運営店舗数の減少等により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比33百万円(2.3%)増の1,463百万円、営業損益は11百万円の営業利益(前年同期は10百万円の営業損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,525百万円増加し、57,111百万円となりました。増減の主なものは、現金及び預金の増加3,048百万円、有価証券及び投資有価証券の時価評価等による増加660百万円、受取手形及び売掛金の減少1,812百万円等であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ576百万円増加し、15,548百万円となりました。増減の主なものは、未払消費税の増加等による流動負債におけるその他の増加380百万円、借入金の増加193百万円、賞与引当金の増加179百万円、未払法人税等の減少363百万円等であります。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加612百万円、その他有価証券評価差額金の増加345百万円等により、前連結会計年度末に比べ948百万円増加の41,563百万円となり、自己資本比率は72.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績予想につきましては、平成29年5月15日に公表した予想を変更しておりません。今後の事業環境や収益見通し等を見極め、業績予想の修正の必要性があれば速やかに修正を開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,489	8,537
受取手形及び売掛金	4,845	3,033
有価証券	50	161
商品及び製品	530	546
仕掛品	27	160
原材料及び貯蔵品	123	144
分譲土地建物	403	552
その他	964	1,036
貸倒引当金	△12	△12
流動資産合計	12,422	14,161
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	26,678	26,330
減価償却累計額	△15,818	△15,980
建物及び構築物 (純額)	10,860	10,350
機械装置及び工具器具備品	2,963	2,928
減価償却累計額	△2,144	△2,165
機械装置及び工具器具備品 (純額)	818	763
車両運搬具	14,876	15,156
減価償却累計額	△11,601	△12,350
車両運搬具 (純額)	3,274	2,806
土地	18,427	18,463
リース資産	2,770	2,582
減価償却累計額	△1,458	△1,334
リース資産 (純額)	1,311	1,247
建設仮勘定	1	119
有形固定資産合計	34,694	33,749
無形固定資産		
投資その他の資産	372	352
投資有価証券	4,593	5,143
退職給付に係る資産	1,389	1,423
その他	2,153	2,346
貸倒引当金	△40	△66
投資その他の資産合計	8,095	8,847
固定資産合計	43,162	42,949
資産合計	55,585	57,111

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,154	1,279
短期借入金	—	440
1年内返済予定の長期借入金	375	326
リース債務	542	522
未払金	3,058	3,058
未払法人税等	533	169
賞与引当金	944	1,123
過年度雑収計上旅行券引当金	17	17
その他	2,178	2,559
流動負債合計	8,804	9,497
固定負債		
長期借入金	683	484
リース債務	958	899
役員退職慰労引当金	145	106
退職給付に係る負債	804	822
その他	3,576	3,737
固定負債合計	6,167	6,051
負債合計	14,971	15,548
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,140	3,140
資本剰余金	2,235	2,235
利益剰余金	33,454	34,066
自己株式	△439	△443
株主資本合計	38,390	38,998
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,824	2,170
退職給付に係る調整累計額	375	370
その他の包括利益累計額合計	2,200	2,540
非支配株主持分	23	24
純資産合計	40,614	41,563
負債純資産合計	55,585	57,111

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	32,271	32,376
売上原価	22,949	23,453
売上総利益	9,321	8,922
販売費及び一般管理費	8,001	7,831
営業利益	1,320	1,091
営業外収益		
受取利息	14	9
受取配当金	55	57
助成金収入	18	41
その他	91	93
営業外収益合計	179	202
営業外費用		
支払利息	5	3
持分法による投資損失	18	17
固定資産除却損	34	17
貸倒引当金繰入額	—	26
その他	14	30
営業外費用合計	71	95
経常利益	1,429	1,198
特別利益		
固定資産売却益	—	150
車両等購入補助金	32	29
移転補償金	50	—
特別利益合計	82	179
特別損失		
固定資産除却損	12	5
固定資産圧縮損	27	25
関係会社株式評価損	—	16
減損損失	—	18
特別損失合計	40	65
税金等調整前四半期純利益	1,471	1,312
法人税等	572	503
四半期純利益	898	809
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	897	808

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	898	809
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13	341
退職給付に係る調整額	2	△6
持分法適用会社に対する持分相当額	1	4
その他の包括利益合計	16	340
四半期包括利益	915	1,149
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	913	1,148
非支配株主に係る四半期包括利益	1	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販・整備	業務受託	不動産	レジャーサービス	旅行貸切	計		
売上高									
外部顧客への売上高	14,022	4,481	2,319	2,343	4,957	3,003	31,127	1,143	32,271
セグメント間の内部売上高又は振替高	149	1,563	25	510	—	54	2,303	286	2,590
計	14,171	6,044	2,344	2,853	4,957	3,058	33,430	1,430	34,861
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△201	335	202	1,036	△119	94	1,347	△10	1,337

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,347
「その他」の区分の損失(△)	△10
セグメント間取引消去	△16
四半期連結損益計算書の営業利益	1,320

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販・ 整備	業務受託	不動産	レジャー サービス	旅行貸切	計		
売上高									
外部顧客への売上高	14,144	4,506	2,510	2,221	4,817	2,999	31,199	1,177	32,376
セグメント間の内部 売上高又は振替高	154	1,558	20	240	—	51	2,025	286	2,311
計	14,298	6,065	2,531	2,461	4,817	3,050	33,225	1,463	34,688
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	△434	309	176	1,021	3	△1	1,075	11	1,087

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,075
「その他」の区分の利益	11
セグメント間取引消去	4
四半期連結損益計算書の営業利益	1,091